

中部の

# エネルギーを 築いた

# 人々

日本の電力王・福沢桃介と日本初の女優・  
川上貞奴の水力発電物語  
(コンサートの開催)

日本の電力王・福沢桃介は1931(大正6)年から約10年間に亘り木曾川に7カ所(賤母・大桑・須原・桃山・読書・大井・落合)の発電所を建設し、それを支え続けたのが日本初の女優・川上貞奴であった。

これらの木曾山中に繰り広げられた水力開発を「水カオペラ」にたとえ企画するコンサート(主催:宗次ホール、協力:一般社会法人・南木曾町観光協会)が2022年7月9日(土)開催された。



コンサートのプログラム表紙



川上 貞奴:日本初の女優  
1871(明治4)年~1946(昭和21)年  
出典:文化のみち二葉館蔵

神津カンナさんがこのコンサートに招待され、挨拶で著書「水燃えて火一山師と女優の電力革命」の概要を話された。この本は、「電気新聞」2015年9月28日~2016年9月30日に連載された「風のゆくえ」を加筆修正のうえ改題したものである。福沢桃介と女優第1号の貞奴が木曾山中に広げた水力開発を「水カオペラ」にたとえ発電所を建設していったものである。

また、南木曾町観光協会から「歴史とひのきの香る里・南木曾の魅力」のトークショーで盛り上げた。

## コンサートの構成

プログラムの内容は次の通りである。

### (1) 司会、お話:加藤裕子

ツアーステーション(株)

- ①福沢桃介と川上貞奴の生い立ちからの人生略歴
- ②壮大な「木曾川オペラ」:ライン川のご城のように並べようと発電所を造った功績を演奏で奏でる解説
- ③100周年を迎える桃介橋と須原発電所  
読書発電所建設の資材運搬路として架けた吊り橋で、全長247mの日本最大・最古の木橋と須原発電所などの解説

### ④南信州に咲き誇る花桃の秘話

### (2) 演奏

地元で幅広く演奏活動で活躍されているヴァイオリン:谷口紗和(たにぐちさわ)、フルート:林里沙(はやしりさ)、ハープ:森清奏子(もりきよかなこ)の3人により、  
ブラームス(1833-1897)  
:ハンガリー舞曲第5番  
スメタナ(1824-1884)  
:連作交響詩「わが祖国」よりモルダウ  
など8曲を演奏した。

## 福沢桃介と三色桃・植樹物語

赤、白、ピンク三色の花を咲かせる三色桃。三色桃の花言葉は「寛大な心」で、桃は長寿と繁栄のシンボルである。現在、南木曾町から阿智村を通過する国道256号線は「花桃街道」と知られており、その由来は次の通りである。

☆ 1922(大正11)年の建設当時、大同電力社長の福沢桃介がドイツミュンヘンにあるシーメンス本社に水力発電研究と水車タービンの商談に訪れた際、庭に咲いていた三色桃の美しさに感動し、自分の名前・桃介に似た花の名前であることから3本の苗を購入し須原発電所の構内に植えた。

☆ 1948(昭和23)年、須原発電所に長年勤めていた藤原長司さんが花桃を何とか増やしたいと思い実を拾い苗木を育て妻籠宿の256号線添いに植えたのが「花桃街道」の始まりと言われている。

☆ 1974(昭和50)年頃、妻籠宿から清内路村に嫁いだ大宮トメさんが花桃の木を嫁入り道



花桃の里(阿智村昼神観光局)

具の一つとして手にしてきた。桜より花の時期が長く色鮮やかな花桃の木を地元の人が清内路地区に増やしていった。

☆ その後、1991(平成3)年に阿智村の地域振興事業として旅館を開業した渋谷秀逸さんが人も少なく殺風景な山里に花桃を約1,000本植栽した。これをきっかけに地域住民で2002(平成

14)年に「花桃の里作り委員会」を立ち上げ本格的に植栽、2005(平成17)年に「花桃祭り実行委員会」が発足し観光客向けの花桃祭りを開催、現在、約10,000本の花桃が植えられ「日本一の桃源郷」と呼ばれるようになった。

この始まりとなる須原発電所の排水路に沿って咲く三色桃についての示すエピソードは、神津カンナの小説「水燃えて火」や茂吉雅典の小説「三色桃の花峠」などで紹介されている。

## 福沢桃介が開発した木曾川水系の7発電所

福沢桃介は、木曾川水系の電源開発を精力的に進め、次表の通り7発電所を建設した。

福沢桃介が開発した木曾川水系の7水力発電所

発電所名	会社名	竣工年	現在の出力
賤母発電所	木曾電気興業	大正8年(1919)	16,400kW
大桑発電所	大同電力	大正10年(1921)	12,100kW
須原発電所	大同電力	大正11年(1922)	10,000kW
桃山発電所	大同電力	大正12年(1923)	24,600kW
読書発電所	大同電力	大正12年(1923)	112,100kW
大井発電所	大同電力	大正13年(1924)	48,000kW
落合発電所	大同電力	大正15年(1926)	14,700kW

## 1 賤母発電所

賤母発電所は福沢桃介水力発電事業の原点で、1917(大正6)年3月に名古屋電灯で工事を着工、1919(大正8)年10月に木曾電気興業によって完成した。当初出力は12,600kW(大正11年:14,700kWに増設)で、名古屋向けの電力として旧六郷変電所へ送電された。



## 2 大桑発電所

名古屋電灯㈱の計画で、1918(大正7)年10月に工事が着工、第1次世界大戦の影響で物価が高騰し難航したが1921(大正10)年3月に完成した。木曾川に面した赤レンガ造りの趣向を凝らした建物で、内部の明かりを外に見せており、発電所とは思えない美しい景観を誇っている。



## 3 須原発電所

須原発電所は1919(大正8)年、大同電力発足直後に着工、1922(大正11)年7月に完成した。建物は洒落た白煉瓦で、屋根の縁には波型のデザインが施され、八角形の小塔が載っていたが、地番沈下もあって、現在5分の1程度が取り壊されている。



## 4 桃山発電所

桃山発電所は1922(大正11)年8月に着工、翌年12月に完成した。搭発電所は周波数を50・60Hz双方に対応するよう水車・発電機が設計された。さらに翌年、発電所構内に15,000kVAの周波数変換器2台を設置し関東関西両方面へ送電できるようになった。



## 5 読書発電所

読書発電所は1922(大正11)年に着工、翌年12月に完成した。当時の出力は47,000kWで、最大規模の発電所であった。まさに福沢桃介が大同電力社長として活躍した大正時代に建てられたもので、木曾谷の自然と調和し、大正期の技術水準の高さを誇る発電所である。





## 6 大井発電所

大井発電所は日本初のダム式発電所である。1921(大正10)年7月工事に着工、1924(大正13)年11月竣工した。建設中大洪水によりダムが壊れたり、大正12年の関東大震災による建設資金難に陥ったときは、自ら渡米し外国債の発行により資金調達するなどの困難を克服し完工させ、日本の電力王と呼ばれるようになった。



## 7 落合発電所

落合発電所(出力：14,700W)は1925(大正14)年4月に工事を始め、翌年12月に完工した。当時、発生電力は名古屋方面に送電された。



桃介ゆかりの発電所

(寺沢 安正)